

男女共同参画推進連携会議「女性のエンパワーメント促進」チーム第3回会合議事概要

1. 日 時 : 平成29年4月12日(水) 13:00～15:00
2. 場 所 : 中央合同庁舎8号館5階共用会議室B
3. 議 題 : 1. 開会
2. 議事
(1) 「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言賛同者の活動について
(2) WEPsの理解促進に向けた情報発信について
(3) 「WEPs問診票」の改訂について
(4) 意見交換
3. 閉会

4. 出席者 :

(有識者議員)

明石議員、石川議員、犬塚議員、徳倉議員、村山議員、渡邊議員

(団体推薦議員)

降旗議員、真鍋議員、三輪議員、谷津議員、山下議員、平田氏(糸数議員代理)、高松議員、川名氏(川口議員代理)、長谷川議員、西立野議員、宮木議員、平松氏(名取議員代理)

(事務局)

武川 内閣府男女共同参画局長、岡本 内閣府大臣官房審議官(男女共同参画局担当)、
岡田 内閣府男女共同参画局総務課長、石橋 内閣府男女共同参画局男女共同参画推進官、
大川内 内閣府男女共同参画局政策企画調査官

5. 議事概要

○議事1について、資料1から3に基づき、内閣府より報告があり、続いて、当日のシンポジウム及び賛同者ミーティングに参加した渡邊議員、シンポジウムのモデレーターの明石議員より発言があった。

・一昨年の「男女共同参画白書」に始まり、チーム会合における議論の場でも「地域の活力を高めるための女性の活躍」がテーマに挙げられていたが、どのように「見える化」して拡大していくのか、やや難しさを感じていた。しかし、シンポジウムに参加し、地方創生の視点を持って経営する地方の女性起業家のメッセージに始まり、政令指定都市の市長が連携した取組、経営トップがリーダーシップを発揮し、全国展開している企業がどのように地域にも貢献するのか、自治体と包括連携協定を結ぶ事例、被災地における復興支援の視点も取り入れた女性起業家の支援等、様々な取組を知ることができ、これまでのテーマが「見える化」された大変良いイベントであった。また、分科会でも課題別にテーマが設定され、自分にとっての好事例を聴くことができ、他の賛同者から刺激を受けた。

・昨年からの賛同者が集まる会合を実施し、好事例の紹介、ディスカッション、懇談会というスタイルが整ってきたように感じている。今後も会合を継続するのであれば、このような流れでの開催が良いと考える。なお、一人当たりの発表時間が5分と限られていたため、詳しくお話を

お伺いすることが出来なかったのが残念。事例紹介の登壇者は4人ではなく、3人でも良かったかもしれない。また今後の課題として、当日参加できなかった方に、あの場の刺激をどう伝えるか、どうしたら参加しないともったいないと思ってもらえるかを検討すべきである。

・首長の賛同者数を増やしてはどうか。行動宣言の策定が形だけで終わらずに実のあるものとするには、首長自身がよく理解することに加え、それに基づき部課長に伝えることが重要である。他の自治体が活気づけば、その効果が波及すると考えられる。既に賛同している首長から直接賛同することの利点を聞けば、賛同者は増えるのではないか。

○議事2について、資料4に基づき内閣府より報告があり、質疑応答を行った。主な意見は以下のとおり。

・Facebook を活用した情報発信について、特に幼少期の子どもを育てている働く女性から良い反応があった。Facebookは30～40代の利用者が中心であり、10～20代はTwitterやInstagram、YouTubeのような媒体が主流。幅広い対象層に情報を発信するためには、多数のSNSに情報を発信する必要がある。最近ではFacebookの投稿をTwitterやInstagramと連携させることもできるため、各媒体に記事を掲載するのではなく、リンクさせることで情報を拡散できれば良いのではないか。

・「働き方」や「ダイバーシティ」というテーマでは大企業が中心に取り組んでいる印象があったが、最近地方の企業や小規模な企業に焦点を当てた事例も出てきている。以前までは都道府県単位で取り上げられることが多かったものの、全国に情報を発信する媒体等にも掲載されるようになった。中小企業の好事例に対するニーズもあるため、WEBを活用した情報発信は費用対効果の観点からも有効であると考えられる。

・WEPsの取組に関しては、ただ署名するだけではなく実行することが大切。最初に経営者が決断し、次にその仕組みをいかにして回していくかが重要であり、今回Facebookで紹介した2社のように、WEPsに署名し、女性活躍推進の仕組みを整えた企業を増やしていくことが求められる。現在、中小企業は人材難であり、当団体として多様な人材の就労支援を行っている。地域で様々な背景を持った人が活躍できる社会にしなければならないと考えている。

○議事3について、資料5に基づき内閣府より報告があり、質疑応答を行った。主な意見は以下のとおり。

・以前に作成したリーフレットは経営目線でもわかり易く、WEPsの具体的な内容が理解できる資料であったが、問診票は大項目がわかりづらく、各論の細かい項目が続いている。問診票単体では全体像が見えづらいため、リーフレットとセットにする、Q&A集で解説を加える等、経営層が理解しやすい工夫が必要ではないか。

・問診票は四段階で評価する項目が多いが、「1」を「2」にするには何をすれば良いのかが具体的にイメージできるよう、Q&A集を充実させて欲しい。

・「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言は今後どのように展開する予定か。また、行動宣言とWEPs、UNWomenが展開しているHeforSheキャンペーンの主旨は類似していると考えられるが、相互にリンクの可能性はあるのか。

⇒現在、行動宣言の地方への展開については、好事例を取り上げて情報発信をしている。今後は、

継続的に好事例を広めていくとともに、経済団体等と連携して地方の経営者に周知していく予定。

○資料6に基づき、明石議員より2年間のチーム活動のまとめについて発表いただいた後、各議員より「女性活躍推進 気合の一言！」と題して、今後の女性活躍推進に向けたコメントを発表いただいた。出席した議員のコメントは次頁の通り。

氏名	所属・役職	気合の一言
明石 伸子	特定非営利活動法人日本マナー・プロトコール協会 理事長	もっともっと有機的な連携を進めていきたい！今が“その時”
石川 康晴	株式会社ストライプインターナショナル 代表取締役社長	女性管理職 <u>50%以上</u> 継続
犬塚 協太	静岡県立大学男女共同参画推進センター長、国際関係学部教授	「多様性」と「包摂」がカギ！
徳倉 康之	特定非営利活動法人ファザーリング・ジャパン 理事	イクボスで組織が変わる！！
村山 伸子	新潟県立大学人間生活学部教授	多様な人材→新たな価値観→進歩 ↑ ・すべての人に働きやすい環境、キャリアアップ ・家庭・社会での男女の役割(育児・家事・介護)みなおし ↑ 地方展開、学生教育
渡邊 光一郎	第一生命保険株式会社 代表取締役会長	個性を活かし、共に成長
降旗 幸子	一般社団法人国際女性教育振興会 代表理事	女性団体からの脱皮
真鍋 洋子	国際ゾンタ26地区 ガバナー	「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」を全国に！
三輪 敦子	認定特定非営利活動法人国連ウイメン日本協会 理事	女性が活きたら社会は変わる
谷津 行穂	特定非営利活動法人ジャパン・ウイメンズ・イノベティブ・ネットワーク 事務局長	女性リーダーの育成 ↓地方展開へ、小規模にかかわらず展開へ 個々人の価値の尊重
山下 いづみ	一般社団法人大学女性協会 理事	<人々に向けて>素晴らしい自分に目覚めよ！
平田 美穂	中小企業家同友会全国協議会	女性の活躍推進で中小企業の魅力倍増
高松 和子	公益財団法人21世紀職業財団 理事・事務局長	男性を変える！
川名 由加	一般社団法人日本アパレル・ファッション産業協会	未来を具体的に考える
長谷川 真理	公益財団法人日本生産性本部 ダイバーシティ推進室長	強みや違いに自信をもって、力につなげよう！
西立野 園子	日本汎太平洋東南アジア婦人協会 会長	家庭内改革も必要！
宮木 由貴子	一般社団法人日本ヒーブ協議会 代表理事	働く“男女”の三方良し 自分良し、企業良し、社会良しの視点で、制度・風土・意識を創る
平松 昌子	特定非営利活動法人日本BPW連合会	女と男の意識の共有を！会合は男女一緒に 夫婦一緒に

○最後に明石議員より、2年間のチーム活動の実施概要については、6月上旬に予定されている企画委員会にて報告すること、また各議員の所属団体において、Facebookの投稿をもっと積極的に共有し、発信して欲しいという依頼があった。

以上